



A 試合会場レポート

試合番号 523

開催日 2023/12/17

令和5年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 女子 会場：東京体育館

観客数： 4,780	開始時間： 10:41	終了時間： 12:38	試合時間： 01:57	主審： 種元 桂子	副審： 富田 博一
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	-----------

NECレッドロケッツ



監督：金子 隆行
コーチ：今村 駿

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

3	25	第1セット 【 00:24 】	17	1
	21	第2セット 【 00:28 】	25	
	25	第3セット 【 00:29 】	19	
	25	第4セット 【 00:27 】	18	
		第5セット 【 】		

ポイント 【】内はセット時間 ポイント
- ()内は交代選手 -

久光スプリングス



監督：酒井 新悟
コーチ：豊暉原 峻

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>

昨年に引き続き優勝し、連覇を成し遂げられたことを嬉しく思います。

どんな状況でも、前を向いて、声を掛け合って戦い抜いた選手達を誇りに思いますし、感謝しかありません。

またどんな時も、私たちに声援を送っていただき、支えてくれたクルーの皆様にも感謝しております。たくさんのご声援ありがとうございました。

タフなゲームになることはわかっていて中で、自分たちのバレーボールのクオリティを、相手よりも高く出せたことが良かったです。

もっと、精度の高い面白いバレーボールをこれからも目指していきますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

25	古賀	ドルーズ	第1セット	大竹	深澤	17
	()	(中川)		(北窓)	()	
	山田	甲		長岡	栄	
()	()	(中川)	()	()	()	
塚田	アチャラポーン	Adams	平山	()	()	
(柳田)	()					
リペロ： 小島		リペロ： 西村				
21	山田	古賀	第2セット	大竹	深澤	25
	()	()		()	()	
	塚田	ドルーズ		中川	栄	
(柳田)	(中川)	()	()	()	()	
アチャラポーン	甲	Adams	平山	()	()	
(古谷)	()					
リペロ： 小島		リペロ： 西村				
25	山田	古賀	第3セット	大竹	深澤	19
	()	()		()	()	
	塚田	ドルーズ		中川	栄	
(柳田)	(中川)	()	()	()	()	
アチャラポーン	上野	Adams	平山	()	()	
(大工園)	()					
リペロ： 小島		リペロ： 西村				
25	山田	古賀	第4セット	大竹	深澤	18
	()	()		()	(中島)	
	塚田	ドルーズ		中川	栄	
(柳田)	(中川)	(長岡)	()	()	()	
アチャラポーン	上野	Adams	平山	()	()	
(大工園)	()					
リペロ： 小島		リペロ： 西村				
	()	()	第5セット	()	()	
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
リペロ： 小島		リペロ： 西村				

<監督コメント>

まずは天皇杯決勝の舞台に立てたことに感謝したい。

スタートから相手に行かれる展開が多く、苦しい時間が長く続いた。

そんな中でも、試合の中で修正をかけて、第2セットを取ることはできた。相手の勢いを最後まで抑えられず悔しいが、現状を受け止めて、リーグ戦で必ずリベンジする。

皇后杯、2023年もたくさんの応援ありがとうございました。また来年お会いしましょう。

<要約レポート>

皇后杯連覇を狙うNECレッドロケッツと2年ぶりの優勝を目指す久光スプリングスの決勝戦。

第1セット、NECは古賀の攻撃で点を重ね、試合をリードする。久光はアダムス、深澤の攻撃で応戦するがNECの守備を乱すことが出来ず、点差を広げられる。中盤以降もNECはドルーズ、甲のブロック、柳田の攻撃でさらに久光を突き放す。久光は大竹がチームを引っ張り点差を縮めるが及ばず、NECがセットを先取る。

第2セット、一進一退の攻防から久光は深澤の攻撃が炸裂し試合をリードする。中盤も久光はアダムスを中心に攻めるが、NECは柳田、古谷を投入し応戦する。終盤は再び1点を争う展開となるが、久光は大竹が古賀の攻撃をブロックしたのを起点に波に乗り、点差を広げる。NECはアチャラポーンの攻撃などで粘るが、久光が逃げきりセットを奪取する。

第3セット、久光は平山、大竹の活躍で点を重ねる。対するNECはドルーズ、アチャラポーンの攻撃で応戦し、観客やベンチを巻き込む熱戦となる。NECは上野のサービスエース、山田のブロックで波に乗ると中盤以降は試合をリードする。終盤、久光は深澤、大竹が攻撃を決め詰め寄るが、最後は上野がサービスエースを決め、NECがセットを取る。

第4セット、NECは好調な上野のサーブが功を奏し、序盤から点差を広げる。久光は長岡を投入し流れを変えようとするが、NECの勢いは止まらない。久光は中島が攻撃を決めて奮起するが、NECは古賀、柳田の攻撃で応戦し追撃を許さず。NECがこのセットも取り、皇后杯連覇を果たした。

作成者：高澤 利恵